

20億年先の人類からのメッセージ

中野 理恵

冒頭、荘厳でゆったりした音楽を背景に、モノクロの画面が続き、しばらくすると、荒涼とした大地に置かれた大きな造形物が現れる。この巨大で無骨な形と置かれている様子^{さま}に、まずは圧倒される。本作の全編を通じて映し出されるこのような多くの造形物は、旧ユーゴスラヴィアに点在して置かれている戦争記念碑で、〈スポメニック〉と呼称するのだそうだ。ある時は、遺跡のように、あるいは大きな埴輪のようにも見え、別の場面では墓石に、また、近代建築のようにも見える。〈スポメニック〉の背景は山だったり、平原だったりと変化するのだが、いずれにしても不思議な風景だ。思わず背筋を伸ばしてスクリーンに向かってしまう、というより、有無を言わず対峙させられてしまった。

「地球年で約20億年後の未来からあなたたちに語りかけています」「天文学者たちの発見によれば人類に滅亡が迫っています」「あなたたちを助けます」「私たちを助けても欲しいのです」との運命的なナレーションで始まる『最後にして最初の人類』は、滅亡の危機に瀕している20億年先の人類から語りかけられる、人類の過去を考察し、未来を洞察した壮大な映像詩である。モノクロの画面と造形物、ゆったり流れる重厚な音楽とナレーションだけで構成される独創的な作りは、〈斬新〉の一言に尽きる。

監督・脚本・音楽を手掛けたのは、映画音楽を多数手がけ、評価も高いアイスランド出身のヨハン・ヨハンソン。アカデミー賞5部門にノミネートされ、ゴールデングローブ賞作曲賞を受賞しているスティーヴン・ホーキンス博士の伝記映画『博士と彼女のセオリー』（2014年／ジェームズ・マーシュ監督）などの作曲で、広く知られている。音楽家



© 2020 Zik Zak Filmworks / Johann Johannsson

としてだけでも世界的に高い評価を受けているのに、監督や脚本まで手掛けていたとは驚きである。〈天から二物も三物も与えられた〉人物なのだ！2018年に48歳の若さで亡くなっていたとは残念でならない。

全編を通して語られるナレーションは、『エドワードⅡ』（1991年／デレク・ジャーマン監督／ヴェネツィア国際映画祭女優賞受賞）での演技が印象深いティルダ・スウィントン。原作はイギリスのオラフ・ステープルドン（1886～1950）が、1930年に発表した同名のSF小説。発表後100年近く経つが、今でも世界中で読まれ、SF映画の金字塔『2001年宇宙の旅』（1968年／スタンリー・キューブリック監督）の原作者アーサー・C・クラークを始め、数多くの文学者やミュージシャンに影響を与えているとのことである。

「人類は美しい精神そのもの」、ナレーションの一部である。有史2000年余りの間に、同じ人間同士が殺し合う過ちを何度も犯して来た人類。だが、それでも、人類を信頼し、未来を託している本作の強烈なメッセージと思う。

《Cinema Information》

『最後にして最初の人類』

アイスランド映画(70分) / 監督: ヨハン・ヨハンソン / 7月23日(金)よりヒューマントラストシネマ渋谷ほか全国順次公開

なかのりえ: 映画プロデューサー、ディストリビューター。(株)パンドラ代表。『ハーヴェイ・ミルク』を第1回配給作品として、これまでに100本を超える映画を配給し、視覚障がい者のための副音声付商業劇場上映を日本で初めて実現。著書に『すきな映画を仕事にして』(現代書館, 2018)等。